

コニカミノルタ株式会社

2021 年（令和3年）3月期 第3四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2021年2月2日（火）18:00 ～ 19:00

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

Q. 資料 P.4 に記載のオフィス事業に関して、欧米の様にロックダウンが厳しくなった地域で10～12月がどういう推移だったかを教えてください。特に12月にかけて売上が減少した傾向はありましたか。

A. オフィス事業の全地域は、3Qに87%まで回復しましたが、欧州は2Q 82%→3Q 86%、米国は2Q 74%→3Q 8割程度まで回復しています。当初の見立てからは、欧州についてはやや足踏みした印象です。12月に傾向が変化したということはありません。

Q. デジタルワークプレイス事業の4Qについて、売上は前年比並み、利益率も5%弱位まで戻る想定と思いますが、3Qから4Qにかけて事業環境の良化が見えているところがあれば、教えてください。また費用を継続的に削減するところがあれば教えてください。

A. 欧州のCOVID-19第2波の経験上から、ロックダウンが一旦解除されれば急速に回復することが分かっています。国内も緊急事態宣言下ではありますが、ワークスタイルは大きく変わっていない事も確認しています。中小企業様は投資に消極的ではありますが、大口案件、地方自治体、海外の行政関連等は減っていません。

昨年4Qに発生したCOVID-19影響は、跳ね返せると考えています。経費・固定費・売上原価という観点では、売り上げが伸びる中でも徹底的に抑制を継続していきます。また、オフィス事業ではリモートサービスが可能な市場の設置台数が増えていますので、3Qからのコスト改善に寄与すると見えています。

Q. デジタルワークプレイス事業の4Q利益の考え方ですが、予定していた構造改革の残りを4Qで実施すると、計画している利益まで戻すのは厳しいように見えますが、いかがでしょうか？また、現段階で21年度の利益計画についても前回示された見通しから変化はないでしょうか？

A. 4Qは3Qから80億円近い利益伸長を実現していきます。ITS/WPHのグローバルでのオペレーションの標準化・効率化、サービスファクトリーの効果、および売上拡大による利益改善で10億円程度を見込んでいます。これに12月末に膨らんだキャリーオーバー分も加わります。また昨年度はCOVID-19で利益に50億以上の悪化影響が生じましたが、今年は足元の状況を見ても、ある程度の回復は見込めると考えています。これらを含めて、きちんと結果を残していきます。21年度についても見直しの必要はないと考えています。

Q. 今回、全社の営業利益は△130億円で変えず、事業別ではプロフェッショナルプリント事業で減額修正していますが、今期にプロフェッショナルプリント事業に対して、何か手を打つのでしょうか。あるいは一過性で利益水準が下がっているだけの認識でしょうか。今後の対策について教えてください。

A. プロフェッショナルプリント事業のなかで、産業印刷よりもプロダクションプリントの回復が足元で少し遅れています。現在の環境のなかで、オンデマンドプリントは必ず回復してくるので、少し時間軸が遅れているだけの認識です。新規の設備投資は遅れていますが、設置されている機器の稼働は加速しているため、ノンハードにおいてはプロダクショ

ンプリントも、産業印刷も売上が拡大しています。一方、デジタル印刷機を支える中・大手印刷会社様向けのワークフロー改善につながる、アプリケーションを含めた支援サービスを強化していきます。

販管費の抑制は継続しますが、大きな削減をするのではなく、デジタル印刷需要が回復し、増加していく際にはその機会を生かせる体制構築に備えていきます。

以上